

巡回指導員として参画して



竹村 すみれ氏へのインタビュー

作業療法士としての経験年数、及び働いている分野を教えてください。

竹村氏

作業療法士としての経験年数は5年になり、小児領域で勤務しています。現在の対象は2歳から小学校6年生で、主な疾患は自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動障害、検診で発達の遅れを指摘され、紹介により利用が開始になった児童もいます。

巡回指導員として取り組みを始めたきっかけや経緯について教えてください。

竹村氏

私の働く職場に、地域支援の一環として巡回指導員として参画されている職種の方がいらっしゃる、私も1年間同行をさせてもらい、助言の指導をいただきながら参画させていただきました。士会の巡回指導員としては、3年前から参画させていただいています。

巡回指導の流れや実際の指導の場面などについて教えてください。

竹村氏

主に巡回指導は毎月1回です。流れは、市町村によっても異なりますが、打ち合わせが15分、見学・観察が40分、協議が1時間程度です。

まずは園の先生方の話を聞き、多職種での観察後に助言を行います。私は運動発達に対して助言をすることが多く、運動や遊びなどを通して発達に必要な要素をお伝えしています。例えば、生活場面でお箸が持てないことに関しても、様々な要因があり、お箸の練習をするべきなのか、それともまずは指の分離運動や握り動作から行うべきのかなど、児童に応じた助言をしています。先生方からは、「助言された内容を取り入れてみて良かった。」、「その児童の苦手な部分があった。」、などうれしい意見がありました。

また、助言をする時は、その児童に必要な運動要素を取り入れるために、先生方と一緒に園でできる遊びを考えるように支援や助言をしています。園でできる遊びを行うことで、取り組みがしやすくなるとともに、今後の変化点の把握がしやすくなると思います。

助言、指導時に気を付けていることがあれば教えてください。

竹村氏

はじめは、先生方へ児の特性や対応策などを助言する際の伝え方に難渋しました。様々な課題点がありますが、全てをお伝えすると先生方への情報が多くなり、その児に今、何が必要なのかという部分がみえにくくなってしまいます。そのため、一番必要な課題、解決できそうなことを中心に助言するよう意識しています。

普段の業務で活かされたことがあれば教えてください。

竹村氏

私の職場では、一人の児童に関わる頻度は週1回程度です。日々の臨床の中で、例えば、児童と指先の練習を行うことで、生活や遊びにどう繋がっているのか不安がありましたが、園に伺ったことで、訓練が実際の遊びや生活場面でどのように繋がっていくのか把握しやすくなりました。また、他の児童の遊びを観察することで、どのような体の動きを取り入れたらいいのかなど、次の支援に繋げるために何が必要であるのか明確にすることができました。

会員へメッセージをお願いします。

竹村氏

小児との関わりは難しい印象があると思いますが、私は作業療法士としての知識は同じで、遊びなどの生活場面が変わるだけだと感じています。現在、小児のリハビリテーションを実施している病院も増えてきていると思います。相談を受けることもありますが、実際に園に伺い、児童の日常を観ていただくことで、必要な支援内容がイメージしやすくなると思いますので、気軽に見学にきていただきたいと思います(^^)

編集部員のコメント

今回の取材を通して、巡回相談時の流れや具体的な指導の内容など、巡回指導員がどのような活動をしているのかについて知ることができました。

私自身、臨床で小児の方へ関わった経験はなく、巡回指導の活動に興味はありましたが、実際の巡回指導員の方がどのような活動をしているのかについては詳しくイメージできていませんでした。竹村さんからお話を伺う中で、児の発達過程の大事な時期へ関わっていること、その後の児の発達のために、児だけでなく、教員など周囲の方への熱意のある関わりを聞き、より興味を持ちました。特に、実際に児に関わる方と一緒に考える機会を作り、その後の児へのフォローできる体制まで考えていたところがとても印象的でした。“児のアセスメントから対応策の提案”、“周囲の方など他職種への関わり”、という部分は、分野は違っても、作業療法士に求められることとして共通しているなどと思いました。また、実際の巡回指導の場面を聞く中で、巡回指導員として作業療法士が必要とされていることを再認識し、士会員の一人として取り組んで行く必要があると感じました。